

2014年度研究倫理審査結果

受付番号	開催日	課題	研究者	承認	備考
50	2014.6.4	脳神経疾患患者の講義後の学びの変化－講義内容の改善と効果についての検証－	掛屋 純子	○	
51	2014.6.4	要援護高齢者のソーシャルサポートに関する研究	矢庭 さゆり	○	
52	2014.6.4	腎移植を受けた学生の学び－腎移植をした患者の手記を講義に取り入れて－	掛屋 純子	○	
53	2014.6.4	「住み慣れた地域での看取り」－介護を継続できる要因と考察－	畑本 英子 三上 ゆみ	○	
54	2014.6.26	がん化学療法を受ける患者の末梢神経障害が QOL に及ぼす影響	礪本 暁子	○	
55	2014.8.3	「腎凍結療法を受けた患者への支援」 (その1) 治療選択時の情報収集方法と治療選択・決定までの心理過程 (その2) 治療後の経過と QOL (その3) 必要な支援と入院中の看護ケアの課題	福本 仁美	○	
56	2014.8.3	「患者の自己管理を支援する演習における学生の学び」－自己効力感を高める対話の演習前後の経験－	塩見 和子	○	
57	2014.10.1	フライトナースの直面する業務上の困難	永田 尚	○	
58	2014.10.1	認知症グループホームでの臨地実験におけるユマニチュアの導入の試み	木下 香織	○	
59	2014.11.5	看護学生が経験するヒヤリハットの要因	看護学科3年 前田 拓朗	○	
60	2014.11.5	認知症高齢者と介護家族に対する地域住民の認識	看護学科3年 中島 加保子	○	
61	2014.12.3	訪問看護師の入浴援助に関する臨床判断の実態	山本 智恵子	○	
62	2015.1.7	チーム医療における嚥下障害のある片麻痺患者への誤嚥しにくい姿勢と食事介助の方法	山本智恵子 吉田美穂 土井英子	○	
63	2015.2.4	脳血管疾患後遺症を持つ患者を在宅で介護している家族の介護意欲が維持・向上する看護師の関わり	看護学科3年 岩崎友里	○	
64	2015.2.4	「訪問看護師の『巻き込まれ』体験とその影響要因」	吉田 美穂	○	
65	2015.2.4	介護老人保健施設の看護職者ターミナルケアを実践する上での困難さに関する研究	丸山 純子	○	
66	2015.2.4	看護大学生の進路選択・決定要因－大学のキャリア支援の課題－	古城 幸子	○	
67	2015.3.4	脊髄損傷者の Posttraumatic Growth(心的外傷後成長)体験に基づく障害受容のプロセス	竹崎 和子	○	
68	2015.3.4	看護系大学の新人看護教員の看護学実習上の困難と精神的健康、個人特性 (SOC) との関連	福本 仁美	○	
69	2015.3.4	生活支援看護学実習におけるルーブリック評価指標の見直し－実習記録の修正と KJ 法を用いた学内カンファレンスによる学習成果から－	木下 香織	○	

70	2015.3.4	A大学看護学部の学生を対象とした認知症サポーター養成講座の教育効果	木下 香織	○	
71	2015.3.4	地域包括ケアに関する講義を受講した学生の学び	栗本 一美	○	
72	2015.3.4	在宅看護実習における看護学生の家族介護者への関わり	栗本 一美	○	
73	2015.3.4	地域マップ作成を取り入れた在宅看護実習での学生の学び	丸山 純子	○	
74	2015.3.4	「中山間地域の後期高齢者の食物選択動機と栄養状態」一食に関する不合理な信念(思い込み)と低栄養との関係—	石垣 優美子	○	

2014年度 研究倫理審査委員	八尋、佐々木、土井、伊藤、佐熊
-----------------	-----------------